大栄工業株式会社　GX取組紹介

企業概要

本　社	佐賀県三養基郡みやき町大字白壁1964
設　立	1976年1月
資本金	1,000万円
代表者	代表取締役社長　干川 量也
従業員数	173名
業　種	製造業
事業内容	• プラスチック製造販売 • FAV機器製造販売 • 合成樹脂販売事業など

企業HP

脱炭素経営の背景とスローガン

■ 脱炭素経営のきっかけ・背景

当社は、自動車部品のプラスチック製品製造を主力事業としています。当社を取り巻くサプライチェーンの間では、大手自動車メーカーを筆頭に脱炭素に向けた取組を積極的に行っています。当社も、サプライチェーンの一角として脱炭素に向けた取組をする事は喫緊の課題です。

加えて、脱炭素経営を行うことは、一企業としての社会的な責任であると認識をしており、従来からプラスチック廃材のリサイクル等に取り組んでいます。今後は、脱炭素に向けた取組をより高度に進めていきたいと考えています。

代表取締役社長　干川 量也

■ GXスローガン

エコな未来を成形する

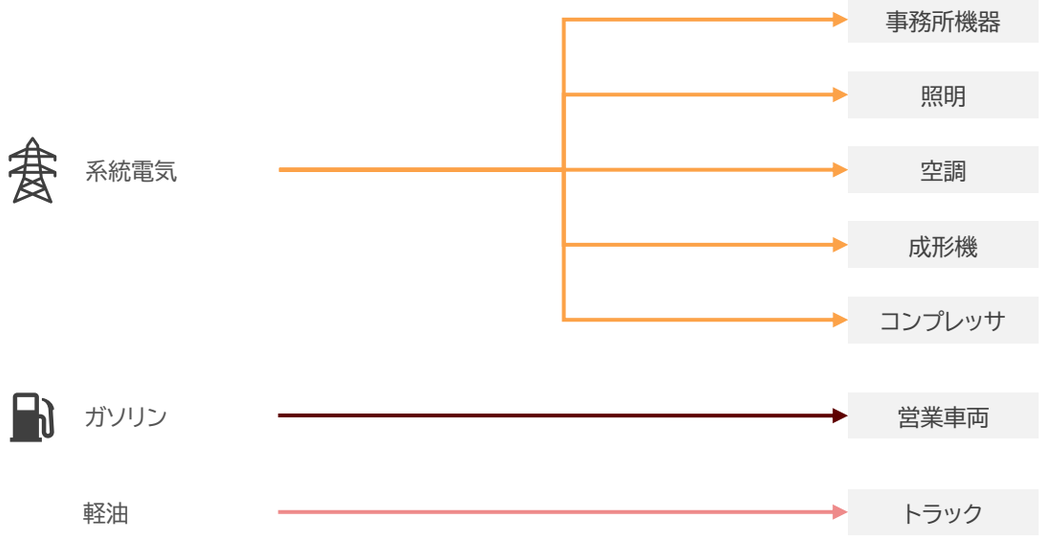
このスローガンには、脱炭素経営に取り組むことで、プラスチック製品を成形する当社のものづくりを通し環境に貢献したいという思いを込めています。

スローガンは各部門の代表者によるグループワークを通して策定することで、参加者の環境意識向上や自社のGX方針に対する理解度向上の機会となりました。スローガンは社内に展開し、社員全員で環境に優しいものづくりを目指します。

エネルギー使用状況の可視化

■ エネルギーフロー図

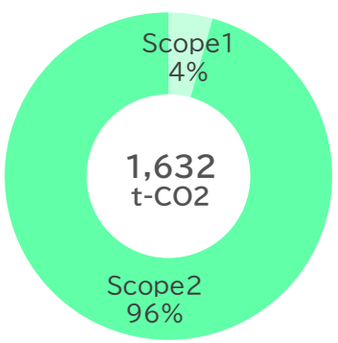
当社では、事務所機器、照明、空調、工場設備で電気を使用しており、特に工場設備の一つである成形機によって多くの電気を消費しています。営業車両ではガソリン、配送用トラックで軽油を使用しており、燃料削減のために配送回数を制御しています。



■ 自社排出量の内訳

2023年度の自社活動によって排出された温室効果ガス量の合計は1,632トンでした。 これは、杉の木のCO2吸収量/年に換算すると115,872本分になります。

当社のGHG排出量内訳は、自社で使用する燃料由来のCO2排出量(Scope1)が71t-CO2、他社から供給された電気・熱使用由来のCO2排出量(Scope2)が1,561t-CO2です。



部門	エネルギー種別	年間使用量	CO2排出量
Scope1	軽油	21.8 kL	56.3 t-CO2
	ガソリン	6.3 kL	14.6 t-CO2
Scope2	電気	3,286,268 kWh	1,561 t-CO2
合計			1,632 t-CO2

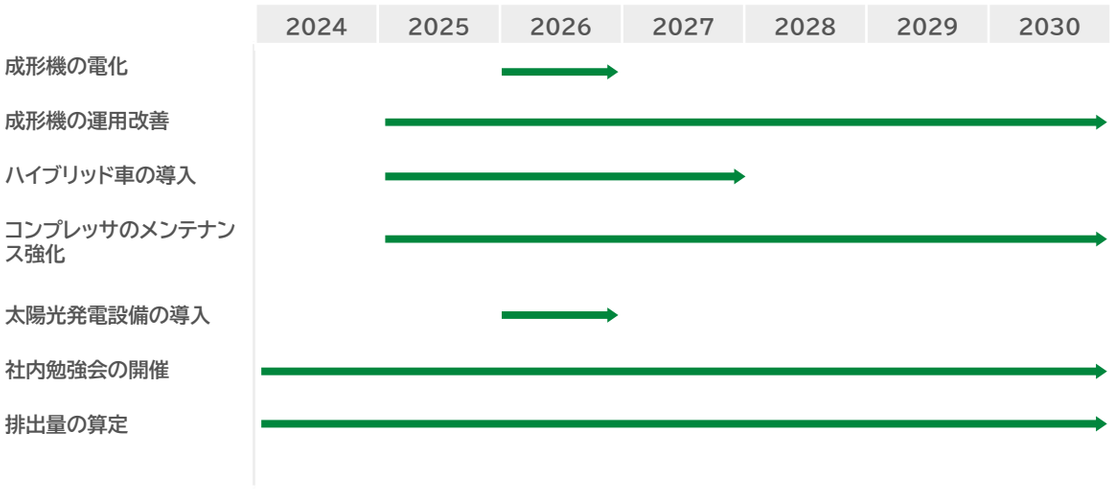
自社GHG排出量の削減に向けた取組

■ 削減計画の策定

削減の流れ

電化 燃料転換	• 油圧式成形機の電化
省エネ	• 生産工程や車両運用の改善 • HV車両への切替
再エネ化	• 太陽光発電設備の導入

削減目標： 2030年度までに30%削減（2018年度比）



■ 設備更新の実施・計画

省エネ取組の一つとして、高効率設備への更新を積極的に行っています。今後も策定したCO2排出量削減計画に沿って設備更新を実行し、さらなるエネルギー効率化を図ります。

照明のLED化

製造工程の関係でLED化が難しい箇所以外において、水銀灯・蛍光灯のLED化を完了しています。

成形機の電化

油圧式の成形機から電動式の成形機へ順次切り替えを計画し、エネルギー効率化を図ります。

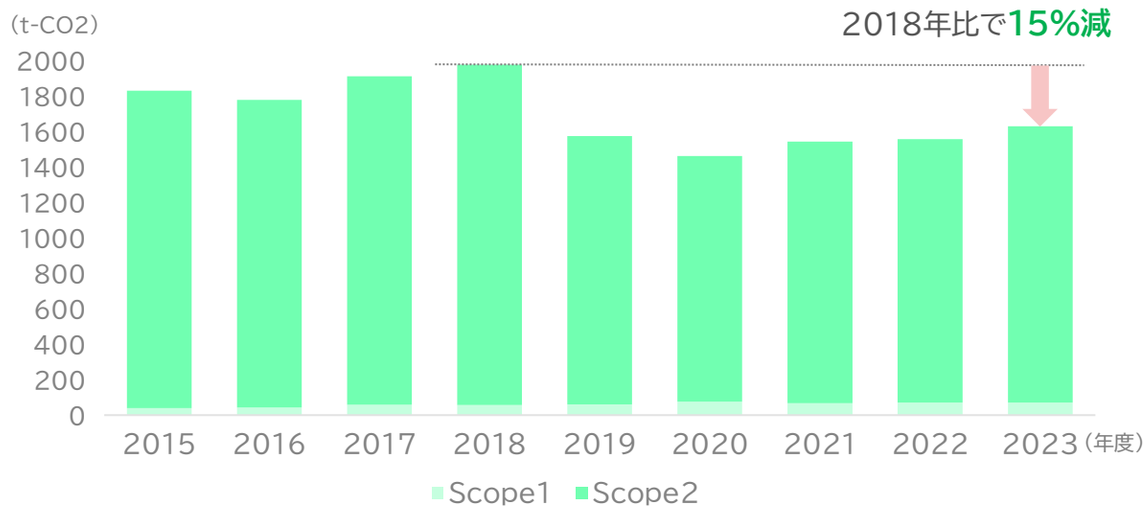
車両のハイブリッド化

営業車両のハイブリッド化を計画しており、2025年3月にもハイブリッド車を1台導入しました。

排出量削減実績の可視化

当社では、これまでの省エネ取組の効果を把握するため、2015年度まで遡って排出量算定を行いました。2018年度から直近2023年度までで、約15％の排出量削減を達成しています。これは、2019年からLED化や配送回数の適正化等の省エネ活動を行ったことによるものです。

年度別排出量の推移



CSR活動

■ リサイクル取組

自社製品の製造において、樹脂廃材をリサイクルしています。

部品事業部

部品製造の過程で出る樹脂廃材を、再び部品製造にてリサイクル

TD事業部

農業害獣駆除機器の製造に高級自動車のプラスチック廃材を再利用

その他

樹脂廃材を再利用し、ランプなどのインテリアを製造

■ ISO14001の取得

当社は2003年5月14日、環境マネジメントシステムに関する国際規格であるISO14001を取得しました。

この企画では、環境パフォーマンスの向上、順守義務を満たすこと、環境目標の達成を実現するための環境マネジメントシステムの要求事項が定められています。